

# 平成28年度 自己評価結果報告書

学校法人 原幼稚園

当園ではこの度、平成28年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## I. 教育目標

- ・好奇心旺盛で元気いっぱい遊びに熱中する子
- ・自分でできることは自分でする子
- ・いろいろな遊びを楽しみながら、最後までやり遂げる子
- ・豊かな感性をもち、歌ったりリズム遊びをしたりすることができる子
- ・自然に触れることを喜び、その美しさを感じ、自然を大切にしている子
- ・親しみをもって日常のあいさつをする子
- ・絵本や物語に親しみ、興味を持って聞く子
- ・危険な場所や危険な遊び方が分かり、安全に気を付けて行動する子

## II. 今年度の重点目標

- 教育カリキュラムの見直し・充実
- 園内研修の充実
- スマイル活動の充実
- 教職員間の情報共有・連携の充実
- 安全管理体制の強化
- 業務の効率化

## III. 評価項目と取組み状況

自己評価項目		取組み状況・成果
1	教育カリキュラムの見直し・充実	年間カリキュラムの見直し・充実化をすすめ、その内容を月案・週案に展開することでさらなる教育活動の向上を目指すとともに、原幼稚園の保育に対する意識や取組の共通理解をはかる。 過去の週案を参考に保育カリキュラムを組み立て、カリキュラム設定やその見直し(反省)がしっかりできている。 職員は、週案をもとに保育全体の流れや見通しを持つことができている。 その一方で、カリキュラムが多岐にわたり取り組みが不十分の点もあった。
2	教職員間の情報共有・連携の充実	行事後の評価・反省を計画的に実施し、改善点等を明確にして記録に残す。また、行事計画の際には前回の反省による改善点を反映させ、ねらいを明確にしてより良い行事内容となるよう意識して取り組む。 各種会議に参加できなかった職員も議事録を通じて会議内容を確認できたが、職員間の情報共有や連携が不十分であり、また学年主任会での意見交換をもっと活性化させる必要がある。
3	園内研修の充実	月1回開催している学年主任会議では議題・検討テーマを明確にした上で、定期的で開催することで、より充実した話し合いの場となるよう意識して取り組む。また、検討結果は議事録を作成し教職員間の情報共有化を図り、重要事項については職員会議で報告するなど、全教職員での情報共有化を徹底する。 夏休みに行われた外部講師による研修では、各職員が振り返りを通じて改善点を見出すことができ、保育業務に活かせるものとなった。 園内研修の機会が少なかつたため、今後は研修を充実させ保育スキルの向上を図る必要がある。

# 平成28年度 自己評価結果報告書

学校法人 原幼稚園

自己評価項目		取組み状況・成果
4	安全管理体制の充実	火災や地震、不審者侵入など、様々な場面を想定した避難訓練について抜き打ち訓練の実施を検討し、年間計画を立てて計画的に実施していく。また、訓練実施後には対応手順や避難経路等の評価・反省を行い、今後の防災体制の強化につなげていく。
5	スマイル活動の充実	スマイル活動、園庭開放の活動内容の充実に取り組むとともに、開催案内を積極的に行うことで、多くの方にご参加いただき園の良さを頂き、更なる子育て支援の充実を図る。
6	業務の効率化	終業後の残業を削減し、体調管理や自己啓発を促す。無駄な作業の削減や仕事の効率化、過度に手のかかる制作物などの簡素化を図る。

## IV. 今後取り組むべき課題

重点課題	取組み内容
1 教育カリキュラムの見直し・充実	保育内容がそれぞれの子どもたちの成長に即したものであるかを再度見直し、適切なカリキュラムかどうかを見極める。カリキュラムの策定及び選別には保護者の意見も留意し、園全体としてカリキュラム見直しへの取組みを実施する。
2 教職員間の情報共有・連携の充実	会議では一方的に聞くだけでなく各々が意見を持ち発言をすることが重要であるため、より主体的な参加を促していく。子どもたちや園全体の状況把握をしっかりと行えるよう職員間の密な連携を目指す。
3 園内研修の充実	研修の実施計画を具体化し、実施時期・回数などを年度当初に明確に設定する。子どもたちの心に関することや、保育に活かすことができる内容及びテーマのものを選定し、積極的な受講を促していく。また職員たちで考え合う研修会を企画し、職員全体の保育スキル向上を目指していく。
4 スマイル活動の充実	活動内容を事前に職員で話し合う場を持ち、開催日程や内容に変化を持たせるなどの工夫を通じて、より多くの方々に参加してもらえる活動へと進化させる。
5 業務の効率化	業務の優先順位付けを継続し、よりメリハリをもって仕事に取り組む。業務量が多いと感じている職員がいることを踏まえ、「不必要な業務はないか？優先度や緊急度が低い業務はないか？」などを園全体で検討していく。

以上